

きもの語り

紬篇

〇八・初秋号
発行：松岡屋

紬ってなに？

普段からきもの着て楽しめる方が多くなってきました。そこで今回は着易くて着崩れにくい『紬』を紹介したいと思います♪
『紬』とはどんなものかご存知でしょうか？
『紬』は真綿から紡いだ糸からできた布のことです。農家の冬仕事として織ったことが始まりだそうで、日本全国に多数あります。今回はその中でも九州・沖縄に絞って主なものをご紹介します。

沖縄県久米島

久米島紬 (カメシマツムギ)

日本の紬織技法は久米島を起点に発達し全国に伝播したとされていて、そこで作られる久米島紬はすべての工程を一人の生産者が行うそうです。ツバメの柄柄が伝統的で、天然の草木、泥染めによって染色します。一反出来あがるまで、約3ヶ月間もかかり、国の重要無形文化財に指定されています。

沖縄県那覇市周辺

首里織 (シュリオリ)

首里織には花倉織・道屯(どうとん)織などいくつかの種類があり、貴族や士族用に色、柄を究極まで高めた織物です。その中でも花倉織は花織と紹織の技法を合わせた沖縄の織物で最高位のもので格調高く、王家の妃や王女が着ていたそうです。琉球王妃気分にあかしてみるのが良いかもしれませんね♪

沖縄県国頭郡大宜味村喜如嘉 (くにがみぐんおおぎみきじょか)

芭蕉布 (バショウブ)

芭蕉布は糸芭蕉という植物の茎の繊維から織られたものです。芭蕉栽培から、伐採し、手で裂いて糸にし、織り上げるまで想像を超える根気が求められる織物です。布地が粗いので通気性がよく、夏でもひんやりとした感じがあるので昔から沖縄の人達に親しまれてきました。

沖縄県石垣市、八重山郡竹富町

八重山上布 (ヤエナマジョウブ)

苧麻(ちよま)と言う麻の繊維を手紡ぎして織られたものが八重山上布で、藍や茶褐色の柄模様が特徴です。税として首里王府に納められた上布は、その後薩摩に貢納され薩摩上布としても知られています。

沖縄県宮古島

宮古上布 (ミヤコジョウブ)

苧麻(ちよま)糸で織った紺紺織物で、苧麻の茎の表皮を小刀で削り取り繊維を取り出したものです。柄は細い紺の集合で模様が織込まれていて、宮古上布は貢納布(税)として納められ人々は苦しみながらも精緻な技術として高めていったそうです。国の重要無形文化財に指定されています。

沖縄県八重山郡与那国町

与那国織 (ヨナグニオリ)

与那国織の特徴は、格子縞の中に両面浮花織を織り込んだ首里の花織にも良く似ています。格子縞の織り合わせがより布に深みを与え美しい花々が元気に咲き誇っているように感じられ、どこか優しさの感じられる織物です。

沖縄県中頭郡読谷村 (なかがみぐんよみたんそん)

読谷山花織 (ヨミタンザンイナオリ)

藍染の紺地に赤白黄緑の色彩を浮かせて織る花織であり、手花(ていばな)織と線紬(そうこう)花織の二つ花織技法に大別されています。小さな点のまとまりで柄が表現され袷の着物として着られます。

福岡県久留米市ほか

久留米緋 (クルメカスリ)

久留米緋は井上伝さんによって生まれました。ある日色あせた衣服に白い斑点がついているのに気づき、その美しさに魅せられます。そこでその衣服を解き、糸の白黒にならって白糸でくり、藍で染めて乾かし織ってみました。仕上がった織物は所々がすれたように見えることから「加寿利」と名づけられました。この織物が久留米緋の始まりだそうです。生地は綿100%で、洗えば洗うほど柔らかくなるので抜群の肌触りです。

宮崎県都城市

綿薩摩 (メンサツマ)

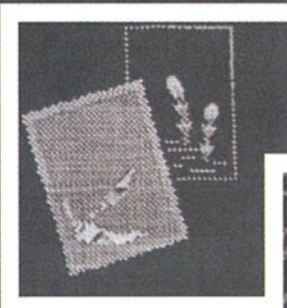
もともと薩摩緋とは麻の織物のことです。木綿の良さを見直そうと、大島紬の締め操で木綿の薩摩緋を完成させたそうです。今では薩摩緋といえば綿薩摩を指すまでになっています。手織りの木綿とは思えぬさらさらとした手触りと、着心地のよさ、細かな緋が特徴と言えます。

篤姫が將軍家へ輿入れする時にも大島紬をきって持って行ったでしょうね。だから一段と大島が有名になったのかな？



大島紬も以前は真綿を紡いだ糸(紬糸)で織られていたのですが、今は生糸で織られているため紬特有のフシがありません。
奄美大島ならではの植物と泥で何回も染めて独特の渋い色になります。それを丹念に手織りし、柄模様の柄がみられる浮き出てくるのです。その手はまさにマジックのようです。

尚、大島紬には、鹿児島で作られているもの(商標、旗印)と、奄美大島で作られているもの(商標、地球印)があります。



産地
鹿児島県鹿児島市
鹿児島県奄美大島



本場 大島紬

ホンバオオシマツムギ

訪問できなくて、すみません!!
呉服屋は訪問営業が多いようですが、突然家に来られても困られるのでは？
そこで松岡屋はご用の際のフリーダイヤルを準備しております。必要であれば、訪問させていただきます。お気軽にどうぞ。

0120-633-0618

